

令和4年度 やよい幼稚園・保育園自己点検・評価（総括）

1. 学園理念

学園理念「心をこめて 心をつくして 心を伝える」に基づき、かけがえのない一人ひとりの心に寄り添い、個性を大切にすることを目指している。

2. 教育目標

「心も体も健康で たくましく伸びゆく子ども」を目標に、一人ひとりの子どもの心に寄り添い、個性に応じた援助をしながら、生活習慣や社会性を身につけるとともに、子どもの可能性、創造性を伸長する教育を目指している。また、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係にささえられた生活、友達と充分にかかわって展開する生活、さまざまに直接的な体験ができる生活を大切にしている。

3. 本年度の自己評価

I 園の基本姿勢について

全般的に学園理念・園の運営、教育方針に基づいて教育が行われている。また、園児一人ひとりの発達にあわせて指導、援助をしている。また、年度の終盤にコロナウイルス感染があり対応に迫られたが、クラスターを防ぐことができた。

II 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解について

幼保連携型認定こども園の教育・保育要領に基づいて教育・保育の計画を立て、子どもの発達の連続性や一人ひとりの園児の状況に考慮して教育・保育を行っている。また、年齢に応じた発達を確保しつつ、安全に配慮しながら、異年齢との交流を図るとともに、必要に応じて関係機関との連携を図っている。

保健計画、安全計画、食育計画を作成し、指導に位置付けるとともに、緊急時には組織として対応できるように緊急時マニュアルを作成している。

保護者へ説明などを通して相互理解を深めるように努めてきた。しかし、本年もコロナウイルス感染症予防のために、保護者の園への入室や行事への参加を制限したり、中止したりしたため、十分に子どもの育ちを伝えられなかった部分もあると思われる。そのため、自分の子どもの育ちに理解を得られない保護者もいた。

また、地域支援についても、感染症に留意しなければならず、限定的に行わざるを得なかった。

III 園独自の取り組みについて

園の特色教育について理解するとともに、園独自の事業についても理解している。また、本年度はコロナウイルス感染症の拡大もあったが、リモート研修もあったため、参加できるものは参加した。

IV 人事管理について

法規に則り、適切に対応している

V 安全管理について

園児や施設・設備に関する安全対策、また、衛生に対する安全管理も適切に行われている。

本年度は、他園でのバス置き去りで死亡事故があった。そのため、本園でもバス利用にあたって、乗車時、降車時とも人数確認を行っていること、また、降車時には必ず見回りをして忘れ物等の確認をしていることを再度共通認識を図った。

今後も安全対策、安全管理を適切に行い、感染症への対策を行うとともに、事故を未然に防ぐことができるように、引き続き管理していくことが必要である。

VI 財務管理について

法規に則り、適切に処理されている。

4. 総合評価

- ・概ね学園理念や園の運営、教育・保育方針を理解し園の教育・保育要領に基づいて教育・保育計画を作成し実践している。
- ・園児一人ひとりの状況や発達に合わせて教育・保育を行うとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。
- ・子どもの育ちの遅れを認めながら親もいることから、日頃の子どもの成長を伝え、信頼関係を築くことを優先させ、そのうえで課題の共通認識をするようにしていきたい。
- ・子どもの育ちについて・本園度は、部分的に何度かクラスの閉鎖をし、行事は限定的に行わざるを得なかったが、予定通り実施した。修了式については、年長児の罹患者が多く、1週間延期せざるを得なかったが、保護者からは理解と賛同を得ることができた。
- ・昨年はYouTubeの配信も試みたが、保護者から実際の子どもの姿を見たいとの要望があったため、今後は、できる限り保護者参加型の行事に戻していきたい。

5. 保護者アンケート結果

- ・本園の教育・保育方針、教育・保育内容について、全般的に理解を得られている様子が伺える。
- ・令和4年度はコロナウイルス感染症拡大から、保護者は玄関までの入室し、行事への参加にも制限をかた。しかし、「運動会」「やよいまつり」「生活発表会」は、子どもの成長が顕著に感じられる機会でもあるので、できる限り保護者が直接参観できるように配慮した。また、年長児には感染に充分配慮しながら「お泊り会」「収穫感謝祭」を実施した。年長児の保護者からはコロナ禍でも子どもの経験を深める機会を提供したことに対して感謝の言葉が多数寄せられた。
- ・コロナ禍の中でも、子どもの園での様子が見たいという保護者の要望が多い。コロナへの感染対策をしっかりと行いながら、できるだけ保護者が直接子どもの成長した姿が見られるよう工夫していきたい

6. 今後の課題

- ・幼保連携型認定こども園として、0歳から5歳までの就学前教育・保育の教育機関として、さらに充実を図ること。
- ・今後もコロナウイルス、インフルエンザ等の感染症が続くと予想されることから、子ども及び教職員の健康管理、安全管理に一層努めること。
- ・これからも行事等が変更せざるを得ない状況があるため、保護者に正しく情報を伝えて、理解と協力を得られるようにすること。
- ・幼児教育・保育の専門家として、また、教育者としての人格を高めるために今後も研修や自己啓発に努めること。